

環境教育リーダー研修

基礎講座 in 茨城

参加者
募集中!

環境意識を高め、環境に配慮した行動をとるには、環境教育・学習がますます重要となっています。

この研修では、小・中・高等学校の先生や地域、職場のリーダー等を対象に、基礎知識の習得とともに体験学習を行い、環境教育のリーダーを養成します。

参加対象者

下記対象地域に在住、勤務、在学（大学生）されていて、既に地域で環境保全活動に取り組んでいる方、又はこれから環境教育・学習に取り組もうと考えている方

対象地域：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県及び静岡県

開催日：平成21年11月18日（水）13:00 受付
～20日（金）12:00 終了
2泊3日

定員：60名（一般30名、教員30名）

参加費：9,000円（宿泊費・食費（2泊5食）・
保険料・交流会費込）

場所：ミュージアムパーク茨城県自然博物館
（茨城県坂東市大崎700番地）

宿泊施設：あすなろの里
（茨城県常総市大塚戸町310番地）

*お申込み、お問い合わせは裏面をご覧ください。

研修概要

詳細はウェブにて⇒ www.env.go.jp/policy/info/kyouiku

1日目：11月18日（水）

基調講演 『環境問題の全体像を理解しよう』

講師 （財）日本エネルギー経済研究所
地球環境ユニット総括 工藤 拓毅

講義 『環境教育の潮流と方法、学びを企画する上でのポイント』

講師 茨城大学 教育学部 知識経営講座准教授 郡司 晴元

2日目：11月19日（木）

グループ別学習（希望講座を選択）

- プロジェクト・ワイルド その1
体験学習法に基づいた米国発の先進的環境教育の手法。野生生物に対する理解、管理と保全、生物多様性、生態系の原理、人間の責任ある行動等を、体験学習を経て楽しく誰でも学ぶことができる。d.とは体験内容が異なる。
- ゲームを取り入れた自然観察（ネットワークECOいばらき 中村 恵美子）
- 地域・学校・企業の連携による教育事例の紹介（アサザ基金 飯島 博）
- プロジェクト・ワイルド その2
- ライフスタイルを考えるワークショップ（エコ・コミュニケーションセンター 小川 達己）
- 環境コミュニケーション（杉浦環境プロジェクト(株) 杉浦 正吾）

3日目：11月20日（金）

まとめの講義とワークショップ 『今後のESDと環境教育リーダーの役割』

講師 「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）理事 森 良
ワークショップ：活動資源マップづくり



主催：文部科学省、環境省 協力：茨城県、茨城県教育委員会
運営協力：特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ

応募方法



<申込み、問い合わせ>

- 教員の方は、各都県教育委員会を通してお申込みください。
- 教員以外の方は、右のあて先まで直接FAX又はeメールにてお申込みください。
- 締切:10月23日(金) (ただし、定員になった時点で応募締切)

環境省 関東地方環境事務所 環境対策課
 担当：寺西、生越
 〒330-6018
 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2
 明治安田生命さいたま新都心ビル18階
 電話：048-600-0815 FAX：048-600-0517
 eメール：KANTAI01-KANTO@env.go.jp



◆車を利用する場合

- 常磐道谷和原ICから 20分
- 古河方面から境町経由 50分
- 筑西方面から下妻市経由 1時間10分
- 土浦方面から常総市経由 1時間

◆鉄道・バスを利用する場合

- つくばエクスプレス守谷駅西口1番ホームから関鉄バス「岩井行き」又は「猿島行き」乗車約25分、「自然博物館入口」下車、徒歩約5分
- 東武野田線愛宕駅から茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車約15分、「自然博物館入口」下車、徒歩約10分

*なるべく公共交通機関をご利用いただきますよう、ご協力お願いします。

平成21年度 環境教育リーダー研修基礎講座 in 茨城 申込書 (FAX：048-600-0517 eメール：KANTAI01-KANTO@env.go.jp)

お名前		性別	11月18日現在の年齢		団体・グループ・学校等(所属している方のみ)	
姓	名					
フリガナ		男・女				
住所(自宅、又は所属先)			電話			
〒			携帯			
都・県			FAX			
区・市・町・村			eメール			
参加動機、また、環境教育・学習経験のある方はその内容をご記入ください		バス送迎(つくばエクスプレス守谷駅～会場)	ご希望のグループについて、第1希望に◎、第2希望に○を午前、午後と1つずつつけてください			
		希望・希望しない	午前		午後	
			a	プロジェクト・ワイルド その1	d	プロジェクト・ワイルド その2
			b	ゲームを取り入れた自然観察	e	ライフスタイルを考えるワークショップ
			c	地域・学校・企業の連携による教育事例	f	環境コミュニケーション